

2022.03.17. 木曜礼拝 信じること

Mac 牧師

こんばんは。JD 牧師の代講です。ここカルバリーチャペル・カネオへのライブ配信礼拝へようこそ。木曜日の夜は、通常、旧約聖書を一行一行学んでいます。今夜は話題性のある学びをします。神の御言葉に入る前に、心から一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様。お～私たちにはどれほどあなたが必要でしょうか。主よ、わがままを言わせてもらえば、今すぐあなたが必要です。あなたの真理の御言葉を話し、教えるため、あなたの聖霊の御力が必要です。ですから私はへりくだり、お願いします。あなたが私たちを導いて下さり、あなたの御心の強さと御力で私の前をお進み下さいますように。そうすればあなたの御言葉が宣べ伝えられ、教えられます。ですから、私たち全員が、皆で御声を聞き、あなたの御言葉を学ぶことができますのです。主よ、あなたがなさろうとされていることに感謝します。私たちはあなたを愛し、あなたを心から賛美します。救世主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

それでは！ 今夜の学びのタイトルは「信じる事」です。その一言です。信じることは、人間の意志に対する神からの最も力強い命令です。信じることは、その一言で、私たちを永遠のいのちに入れるか、永遠の天罰に入れるかのどちらかです。信じる事。私にとって、本当に信じているかどうかを確認するため、自分自身の内側を見ることができる多くの兆候があります。人を知るには人が必要です。私は、当時ぶらついてたのを覚えています。信じます！ キリスト教は信じてましたが、イエスはそれほどでもありませんでした。それは明らかでした。なぜだか分かります？ 刺激がなかったからです。「イエスが来られる！」私の答えは、こうでした。「ああ、イエスが来られる。そうだね。」それが、私が主を本当に信じるまでの経験でした。聖霊の御力による、目が覚めるような体験を主に感謝します。説教壇の後ろの多くの人々もまた、信じていると言いますが、信じていません。皆さんそれが分かりますね？（会衆：はい）

多くの公言するクリスチャンが信じていると言いますが、信じていないのと同様です。後から無関心で出てきたりするんですよ。聖典に反することをしては、「え？」という感じです。あるいは、すべてを聖書的と呼ぶのとは全く逆の行動をとる。彼らがいつも指摘し、言おうとし、多くのクリスチャンに押し付けようとする事の一つは、イエス・キリストが唯一の道ではないということです。公言するクリスチャン、説教壇の後ろの人たち含め、どれだけの人がそう言っていることでしょうか。彼らの多くが、です。しかし皆さんに言っておきます。彼らが信じているものは何であれ、キリストだけを信じなければ、その信仰はすべて無駄です。では、今夜の学びに入る前に、この教えは、誰かの救いを判断するためのものではありません。それは神がなさいます。神が人の心をご存知です。しかしこの教えは、私たちの実を判断するためのものです。よろしいですか？ 私たちは、判断すべきで、聖書は、判断とは義によって判断する事と語ります。正しい判断は、神の御言葉の中に含まれています。それで実のあるなしがわかるのです。また、私たちは人類の歴史の中で、ある地点に到達したと信じます。私たちは自分自身に挑戦しなければなりません。私たちは、キリストにある兄弟姉妹として、互いに挑戦し合う必要があります。信じていると主張するすべての人に。しかし圧倒的な不信感をあらわにします。クリスチャンと公言している人の中には、救い主という“考え”を愛している人があまりにも多いのです。しかし彼らは、キリストのみから来る救いの力そのものを疑っています。彼らは、神の御言葉の側面を信じていますが、その全体像を否定します。それが大きな問題です。というのも、私が見たところあなたはそれを全てを信じるか、または全部を拒否するかなのです。そのすべてを明確に理解しようと言っているのではありません。私たちが

知っているのが、真理の御言葉だと言っているのです。それが私の信じる事です。なので、私はそのすべてを信頼します。自分がはっきりと理解していない部分でさえも。それ以外のものは妥協につながり、妥協は往々にして破滅につながります。そう思いませんか？（会衆：はい。）

まず初めにしたいのは、聖書の中の「信じる」という言葉を見る事で、聖書の立場から定義します。そうすると、これが「信じる」という単語に関して分かる事です。ヘブライ語の「信じる」は、身に纏う、または、堅固で、信頼でき、永久的だと証明する行為、という意味があります。言い換えれば、信じること「信じる」は、証明することによって確立され、それらの証明は、検証され、信頼でき、また、それを信じた以前の者が全員確証したことに起因します。私たちがそれを考えるとき、この「信じる」という言葉が、最終的に「信頼」に行き着くのがわかります。事実、信者であることは、言わば三位一体の過程を経て得られるものなのです。「信じる」「信仰」そして「信頼」そのどれもが切り離せません。全部繋がっています。私たちが信じると、それが私たちを信者の姿にします。ではここからが本題です。とても大切なことなのです。さて「信じた」という言葉が初めて聖書の中で出て来る聖句を見ていこうと思います。この言葉が聖典に使われる以前は信じていなかったというわけではありません。彼らが信じていたことがわかるので、そう言う意味ではありません。しかし興味深い事に、次の記述の中で、初めて「信じた」という言葉が独占的に使われています。聖書を開き、「創世記 15 章」を見てください。「創世記 15 章」です。これから読む箇所は、神がアブラハムに約束の御子を誓われます。その時、彼はアブラムと呼ばれています。ご存知ですね。1 節から 6 節までを読んで、解説していきたいと思います。これが今夜の題材に結びつきます。本当に、今日の私たちへの理解のためにあると思います。1 節から、神の御言葉をお読みします。

創世記 15

1 これらの事後、主の言葉が幻のうちにアブラムに臨んだ、／「アブラムよ恐れてはならない、／わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは、／はなはだ大きいであろう。」

2 (しかし) アブラムは言った、「主なる神よ、わたしには子がなく、わたしの家を継ぐ者はダマスコのエリエゼルであるのに、あなたはわたしに何をくださろうとするのですか。」

3 アブラムはまた言った、「あなたはわたしに子を賜わらないので、わたしの家に生れたしもべが、あとつぎとなるでしょう。」

4 (見よ) この時、主の言葉が彼に臨んだ、「この者はあなたのあとつぎとなるべきではありません。あなたの身から出る者があとつぎとなるべきです。」

5 そして主は彼を外に連れ出して言われた、「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい」。また彼に言われた、「あなたの子孫はあのようなになるでしょう。」

6 アブラムは主を「信じた」。主はこれを彼の「義」と認められた。

では、このことについて説明します。そして、神の御言葉を基に、真に生ける神のご栄光を見ます。まず、1 節をよく見てください。「信じた」という言葉が使われる前に、まず何かが起こったからです。この 1 節の内容に留意ください。これらの事後、主の言葉が幻のうちにアブラムに臨んだ、「アブラムよ恐れてはならない、／わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは、／はなはだ大きいであろう。」皆さん分かりましたか？ ですから、私たちは最初に主の御言葉を貰うのです。これが聖典の随所に見られます。「主の言葉が」でも、それがこの記述に記されているのはとてもすごいことだと思うんです。最初に御言葉が主から来て、大きな報酬が約束されるのです。その考え方をこんにちに生かすと、主の御

言葉の中には、大きな報酬があるということではありませんか？ 具体的に言うと、非常に大きい報酬では？ 繰り返しますが、報酬/報いが主の御言葉の中にある。そこに報酬があるのです。私はこの点について、次のように考えます。主の御言葉なくして、信仰は生まれません。それが聖句のない教えが無効である理由です。皆さん聞いてます？ 説教壇の後ろに立って、ほとんど聖句を使わずに話す偉大な演説者たち。確信できることが1つあります。神の御力はそこにありません。彼らたち自身の力だけです。主の御言葉こそ、力があるのです。これらの聖書のない教えは、罪は示されませんし、彼らは人を納得させるかもしれません。感動と誇大広告に満ち溢れています。皆さん彼らをご存知です。今日は名前を伏せますが、私は出しますよ。—(笑)— 彼らは、罪には触れず、神の英知を促進せず、自分の勝手気ままにやり、彼らが神について語るとき、神の慈悲についてだけ話し、決して神の裁きや、従順への召しは言わない。私は、強制的な服従とか、律法的とかの話をしていてではありません。いいえ、そうではありません。これは、そもそも信じることによって信者には自然な流れでもたらされる従順さですから。悲しいかな、多くの公言するクリスチャンが、これらの人気のある人生のコーチ、哲学の教祖にしがみついで愛しています。お〜何と 彼らは瞬間的な高揚感を与えてくれるから、「ねえ、あの人が言ったこと、聞いた？」となります。でも、続かないんです。それはクリスチャンの成長に、事実プラスになるどころか、マイナスです。新しい信者にとっては、お〜何と言う事でしょうか。迷っている誰かが、この種の聖句のない教えを聞いた後、彼らの心に信仰を芽生えさせるため、脱洗脳しなければなりません。彼らの心の中にどんな信仰でも芽生えてしまうからです。そのゴミくずに巻き込まれます。真の生ける神の知識が欠ければ、何の意味もない世俗的な知識につながります。こんにち見回してください。神は人間の知識と知恵を取られ、それを無に帰されました。どの専門家も完全にバカバカしく見えます。しかし何が悲しいかという、非常に多くの人が無の知恵に従っていることです。先に進みます。「創世記 15 章 2 節 3 節」神の御言葉をお読みします。

創世記 15

2 アブラムは言った、「主なる神よ、わたしには子がなく、わたしの家を継ぐ者はダマスコのエリエゼルであるのに、あなたはわたしに何をくださろうとするのですか。」

3 アブラムはまた言った、「あなたはわたしに子を賜わないので、わたしの家に生れたしもべが、あとつぎとなるでしょう。」

この記述で凄いのは、主はすでにアブラムに、12章にある通り、星の数ほど子孫を授けると仰ったことです。神がアブラムに国を出るよう仰ったときです。覚えていませんか？ アブラムはそうしました。しかし何年も経った今、アブラムにはまだ息子がいませんでした。彼はエリエゼルが跡継ぎになると思っています。お付き合いください。アブラムは、12章で主が言われたとおり国を出ました。しかしここで、アブラムは基本的に神に疑問を抱いています。神がアブラムに仰ったのは、そもそも、親族から離されるためです。神は彼に全く同じことを仰いましたよね？ 約束の子、つまり息子という意味です。だからアブラムは主の命令に従いました。しかし、アブラムは約束された息子に対する信仰は「ふむ。。。」疑問でした。私たちは皆同じことをします。私たちの誰もが、アブラムが示した以上の信仰を持っているとは言えないと思います。私たちはそこまで大胆ではないと思います。しかし、ここに示されているのは、私たち全員にとって重要な教訓です。なぜなら、ある程度は神に従っていても、神の御約束を完全に信じているとは限らないからです。しかし まだ見ぬ神の御約束は、なおも、神からの御約束なのです。皆さん、付いてきていますか？ 私たちは一旦神に召されその旅に出発すると、その時が来ます。神が何か仰っ

たのに、それが見えない（起こらない）ということが、実は何度かあります。何も起こりそうに思えないと、私たちは神に疑問を持ち始めます。神が遠く感じられます。すると私たちの愛する神は仰ったことを忠実に実行するのを私たちに思い出させることをなさいます。アブラハムと同じように、神はそれらの約束について私たちに教えて下さっています。神は垣間見させて下さいます。質問は、「私たちは、アブラハムのようにして前に進み続けるのか？」私たちは？ それが信者の証です。私たちはそのために努力し、そのために祈るべきです。ちょっと時間がかかるかもしれませんが。つまり転ぶかもしれませんが。もっと疑問を持つかもしれませんが。しかし、私たちは信仰の歩みとして、前進し続けなければなりません。繰り返しますが、その信仰が生み出されたのは、御言葉によってです。皆さん聞いていますか？ 迷った時は、御言葉を出す。それが、私たちのやるべきことです。日曜日、私たちは話をしました。いわゆるクリスチャンが信仰を捨てたのは、そもそも信じていなかったからだ。都合のいい信仰だったのです。だから、神からの注意喚起を受けることがなかったのです。神は彼らの心をご存知です。彼らにそんな特権がないんです。信じる者は、神の御約束を思い出します。それが、前進し続けるのを助けます。迷ったり、つまずいたりしているときでも、イエスはずっとご忠実であられます。これを知りながら、私たちの信仰と心は、神の御言葉に対して心を込めて留まるべきです。多くの人の中でアイザック・ニュートン卿が、こう言ってるのを引用されます。

「中途半端に考える者は神を信じないが、本当に考える者は神を信じざるを得ない。」それは、単に神が存在するというだけではありません。違います。これは、真の生ける神を信じることです。御言葉の神を。私たちが神を求めるとき、神は私たちが継続するため必要なものを正確にご存知です。アブラムと共にこのことが次の数節に示されています。でもその前に、もう1つ、小さな詳細を指摘します。エリエゼルという名前は、「神は助けである」という意味です。そして聖典の中には、その名を持つ者が11人います。これは創世記15章で最初に記された者です。エリエゼルが…「神の助けである」が約束の息子イサクの妻を探しに行くのです。神ご自身が、約束の子イエスのために妻を見つけられたのです。人の子。そこには小さな真実があると思うんです。ご自分で調べてみてください。では「創世記15章4節から6節」もう一度読みます。

創世記 15

4 (見よ) この時、主の言葉が彼に臨んだ、「この者はあなたのあとつぎとなるべきではありません。あなたの身から出る者があとつぎとなるべきです。」

5 そして主は彼を外に連れ出して言われた、「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい」。また彼に言われた、「あなたの子孫はあのようなになるでしょう。」

6 アブラムは主を”信じた”。主はこれを彼の”義”と認められた。

これは非常に重要です。4節で、改めて見ます。「主の言葉が彼（アブラム）に臨んだ」これは、神の継続的補強です。これが私たちに必要です。その御言葉が。アブラムに再び臨みました。神の御言葉を確証するため、なので、私たちは確認するため頻繁に必要になります。そして5節で、神はアブラムにすでに話されたことを示されます。それから再度、アブラムに語られます。それから6節で、「アブラムは信じた。」彼は信じました。そして、「主はこれを彼の義と認められた。」お～これで、主を純粋に信じるのが義とされることは、間違いなく事実だとわかります。聞いてますか？ 私たちは一度信じれば、神の義を身にまとうことができるのです。これを把握してください。聖徒の皆さん。なぜなら覚えていますか？ この後、アブラムは名前を変えられたのです。でしょ？ それでも彼はなおも、イシュマエルを設けるこ

とで神を助けようとしたね？ 神が彼の義を取り戻して下さるかどうかわかりませんが、自問自答してください。ここでの要点がわかりますか？ 一旦信じれば、私たちの救いは確実です。これは義の記述です。神の義。わかりますね。私たちがそうであることを祈ります。本物の信仰は、本物の悔い改めを生み出します。また、それが、本物の実を生み出すのです。これが今夜の私たちの挑戦であり、教訓です。私たちの実をより豊かにするため信仰に基づく。ですから、今やアブラムは、息子を持ち、その子が自分の相続人になるという主の御言葉を信じました。こんにちの私たちにとって、人の子を信じる事が必要です。そうすれば、私たちは永遠を通して相続人として、主とともに支配し、統治することができるのです。これが私たちの信仰の歩みなのです。なぜなら私たちが信じるから。アブラハムが、信仰の父と呼ばれる理由がそれです。なぜなら、信仰そのものの頼みの綱が、「信じる」という言葉なのです。さてここからは、少し専門的な話になります。信仰について語るとき聖書に従って、5つの柱、または5つの基礎と呼ぶものを包含していると見るべきでしょう。でも7本の柱を持つものもあります。4本と3本のものもあります。それで今夜はポイントを押さえるため、5つに絞りました。この5つの信仰の基本は、再度「信じる」という単語からきていて、ご存知動作を意味する動詞ですが、それが、名詞の「信仰」に該当し、所有格になります。皆さん、ついてきていますか？ そしてユニークなことが起こります。というのは、名詞が形容詞に変換され、さらに動詞に戻るからです。ただひたすらループを繰り返すと思います。どちらか一方が欠けてもダメなのです。これは、信仰と信念を理解する上で、本当に役立つことを願います。これらの用語がただ緩く使用されているわけではありません。これはすべて、私たちがどのように信じるべきかの一部であることを忘れないでください。では、神の御言葉に関する信仰の第一の柱は、感情に基づくものではなく、信仰は「事実」であること。多くのクリスチャンや公言するクリスチャンがするのは、聖書を通して、感情で動く事。自分が "気分が良い" と感じる部分を受け入れ、あまり気分の良くない部分を拒否する。「お～ああ。私はその部分を信じない。その当時だけのために書かれたんだから。」そして言い訳は尽きません。結論はこうです。聖書がこうであると語る時、それがその通りです。私たち全員の罪を示すのに十分な内容です。みんな一緒です。しかし多くの人々は、御言葉を見るとき、このような信仰の側面を持ち合わせていないようです。彼らはそれを不正確と見ます。何ですって？ ヨハネの福音書 17 章 17 節、神の御言葉をお読みします。

ヨハネ 17

17 真理によって彼らを聖別してください。あなたのみことばは真理です。

それは、全世界を意味します。断片的なものではありません。全部です。人々は、この信仰の基本を失っているため神の栄光が汚されていたり、あるいは完全に切り除かれたりするのです。それがその後の行動を阻害します。全て断ち切られます。栄光が汚されているからです。情けないのが、こういう映画についてどう考えるか。いいですか？ 彼らが制作する聖書的な映画です。つまり、神の御言葉は、その言葉通りに語られ、それは主に多くの栄光を与えます。その一例がサムソンです。サムソンについて作られたすべての映画で、この男は身長2メートル、体重120キロくらいですべて筋肉ムッキムキですよ？ 聖書にはそんなことは書かれていません。事実逆です。彼らはなぜ強いのか、その理由がわからなかったのです。彼らはそんなガラクタを生み出して神の栄光を奪ってしまうのです。「お～、そんな小うるさくならないで…」私は、神の御言葉に関しては、小うるさくなります。あなたがご覧になりたいなら、どうぞ。ええ、「あなた」がどうぞ！ あんな不正確なものを見るのに2時間半も費やせないし、私は腹が立ちます。もう血圧が上がりました。でも言い換えれば、この信仰の柱なくしては、神の御言葉が疑いを放ちま

す。皆さん知ってますか？ そういう内容が出て示すのは、私が見たのとは違うのです。しかし、これが神の御言葉が語る事とされ、私たちの思考が鍛え直されるんです。非常に悲しいです。そう遠くないうちにこの柱が欠けている人の多くが御言葉を拒否するようになります。悲しいことに、信仰で教えられもせず、懐疑の中で教えられるんです。特に彼らがQ&Aをする時、皆さん知っていますよね。彼らは誰を選んでネットワークに入れるのか分かっています。

「では、某牧師に質問させてください。あなたはイエス・キリストが唯一の道であると信じますか？」

「まあ、聖書や聖典の中には、私たちに語りかけてくるものがたくさんありますが…」(物まね) —(笑)— 皆さん見たことあるでしょ？ あそこでタップダンスを踊るなんて、神への冒瀆です!!! 先に進めます。次の信仰の柱は「信仰は個人的」です。私たち一人ひとりが、真の生ける神を知ることを決意しなければなりません。そして、神の人間への贖いのご計画。それは個人の選択です。誰も私たちのためにそれを行えません。ヨハネの福音書17章3節にも記されています。神の御言葉をお読みします。

ヨハネ 17

3 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

個人的なつながりです。グループ的な受け止め方ではありません。真の生ける神を知ることは、霊的な親密さを得ることであり、神がどういう方であるかという”考え”だけではありません。神を知ることが、私たちの信仰にとって重要なのです。神を知ることは、イエス・キリストの福音を知る事によって永遠のいのちにつながります。言い換えれば、神を敬うことが、永遠のいのちに繋がりません。神を認めることが、永遠のいのちに繋がりません。神の周りにいることさえも、永遠のいのちに繋がりません。イスカリオテのユダを考えてください。3年間、何らかの変化がありました。そして何が起こりましたか？ 私たちは神を知らなければなりません。永遠の命の御約束のために、イエス・キリストの福音を信じ、受け入れる。他のすべてを実現するための約束です。それがそもそも、信じることに起因する信仰の側面です。個人的な関係であり、神を知ることなのです。第三の要素、柱は、私たちの信仰を「言葉で表現する」ことです。私たちは皆、主を呼び求めることで信仰を公言します。言葉を発する。私たちの主は、このような信仰の側面を認めて下さいます。これは所有権の表現です。この信仰は私のものです。私たちが信じると主張する信仰があるのを明らかにするため、本当に役立ちます。使徒ペテロがこの主張を表現しています。「使徒の働き2章21節」にあります神の御言葉をお読みします。

使徒 2

21 しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。

使徒ペテロは旧約聖書から引用しました。私たちは毎週日曜日、使徒パウロの「ローマ人への手紙」でそれを聞いています。これは、実は、イエス・キリストの主権に関する信仰告白で非常に理にかなっています。主を呼び求めることは私たちの信仰の必須条件であり、重要な基本です。では4つ目は、この名詞：faith/信仰が、形容詞：faithful/忠実な に変化し、動詞：believe/信頼するを示します。「信頼する」は、そもそも、私たちが信じると主張する信仰とは何かを、忠実に生きている人がどのように生きているかで示します。これは、信仰が私たちの生活で活かされている事実を語ります。信者として、信仰は実践的であり、実施されています。信仰は実行されます。見えてきます。ある意味、自分にある信仰の度合いまで知らしめます。考えてみてください。私が信じていると主張するものをあなたが見たことがないのであれば、それが何であれ、私の信仰はどの程度でしょう？ あなたはそれを見たことないのだから。そ

ういう考え方が必要なのです。もし、私が本当に御言葉を信じるのであれば、特にこんにち、来たるべき約束、私たちが目のあたりにしている預言の展開が、私の人生に反映してませんか？ 反映されないなら、私にはどれだけの信仰があるのでしょうか。はたして、信仰があるのでしょうか。

「信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」(ヘブル 11:1)

私たちに信仰があれば、ある時点で、何らかの形で、人がそれを見れるはず。「使徒の働き 6章7節」にも、このような言葉が収められているので考えてみましょう。神の御言葉をお読みします。

使徒 6

7 こうして、神のことばはますます広まっていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。また、祭司たちが大勢、次々と信仰に入った。

言い換えれば、信仰に忠実であることが忠実に示されます。なぜか？ なぜなら彼らが信じているから。なぜ、自分が信じていないことを何度も何度も、そう厳格にやりますか？ お～いずれは、表に出ます。そうなるでしょう。しかしこれは、生涯、一生の付き合いです。ええ、私たちは後退し、まだ罪を犯しますが、私たちは知るでしょう。兄弟姉妹は分かるでしょう。私たちを愛する人たちは、私たちに挑戦します。それがこんにち、欠けてますよね？ 人は傷つき、感情も傷つきます。「何なのよ。」「愛している。あなたの気持ちは二の次、私のあなたへの愛が第一だ。」お互いにそれを知っていれば、受け止めることができます。つまり、言い方があるんです。私なんかやってもダメなんでしょうけど。-(笑)-でもポイントは分かりますね？ これが聖書が語っている良い行いをするに繋がります。その良い行い、つまり敬虔な働きは、信仰の副産物だと言えるでしょう。なぜなら、私たちが信じるからです。

「ヤコブの手紙 2章 24 節」良く知られている節ですね。神の御言葉をお読みします。

ヤコブ 2

24 人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことが分かるでしょう。

この節をめぐる多くの論争が巻き起こります。「お～！行いについて話してる～行いについて話してるじゃん。」あなたは、聖句の内容を文脈から読み取ったのですか？ “信仰だけによるのではない” クリスマンとして信仰と良い敬虔な行いは密接に関係します。どんなに小さなことでも。使徒ヤコブが言っているのは、このことです。私にとって、これは御霊に歩む者、御霊を歓迎する者と、肉に歩む者を分ける領域の1つです。さらに言えば、真の改宗者と偽の改宗者を分けます。真の生ける神への信仰を持つことは、行動を要し、それによって応答が来ます。それは起こります。どんなにわずかなことでも、あなたは見て、そして分かるでしょう。これは、そもそも真の生ける神を信じることによって生み出される成果です。良い行いとは、私たちが何が正しいのかが分かってくるようになるにつれて、私たちが行うすべてのことにおいて敬虔な働きであり、それは、罪を示す聖霊が私たちを駆り立て、私たちが信じるからこそ、正しいことを行うのです。私たちは、無私無欲の人生を歩みます。主の恵みと知識において成長するにつれ、より無私になるのです。全てが自分ではなく、神を敬うためです。そうすれば、主が導かれるまま人に仕えることができます。信仰を働かせる方法はたくさんありますが、祈りは、私たちが行うことができる最も重要な行動です。それが5つめの信仰の柱に繋がります。信仰は「不変」である。絶え間ないプロセスです。一時的なものであるはずがありません。それは、あらゆる場面で常に存在し続けねばなりません。そのために祈る必要があります。ここで、その信仰の行為としての「祈り」が再び登場するのです。皆さんについては知りませんが、私は、神のタイミングは、神のタイミングだと学び続けています。ですよ？ 私たちが祈ると、それ（祈り）を所有されるのは主です。主が、それが答えられる時を実行

される方法を所有されます。そのことに、もっともっと気づかなければなりません。もし、私たちが本当に信じるなら、その祈りに対して信仰を持つように駆り立てられるでしょう。祈りへの信仰です。予想外のタイミングや方法でそれらが答えられるとき、私たちが必要としていた方法で、神がやってくださったと信じてください。なぜなら、神は私たちが気にかけ、愛しておられるからです。私たちはお互いのために常に祈り、そして、みんなが絶えず私たちのために、祈って下さるよう祈る必要があります。日曜日に祈りについて少し話をしました。祈りの力は物凄いです。あらゆることのために祈ることを学びましょう。実践です。時には運転中も。人がたくさん乗っていない限りは ほとんどいつも、と言っていいです。ラジオを消して、祈り始めてください。ガラクタを聞くのを止めてください。そう、報道機関、あの人たちは勘弁してほしいです。しかし、ここで重要なのは私たちの信仰は不変でなければならないということで、これには祈りも含まれ、常にそうでなければなりません。さて、これから皆さんと例え話を見ていきます。よろしければ、「ルカ書 18 章」にお付き合いください。2つの節を読みますが、画面に表示されませんので、見ていただきたいのです。ルカの福音書 18 章 1 節。しつこいやもめの話です。1 節を強調したいと思います。それから時間の関係上、8 節に飛びます。ここで継続的な祈りと信仰は副産物であることが挙げられます。では 1 節、神の御言葉をお読みします。

ルカ 18

1 いつでも祈るべきで、失望してはいけないことを教えるために、イエスは弟子たちにたとえを話された。

それが分かりますか？ 人は、「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」これは、私たちが真に理解するため重要です。8 節に飛びます。イエスが仰います。

ルカ 18

8 あなたがたに言いますが、神は彼らのため、速やかにさばきを行ってくださいます。だが、人の子が来るとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」

ここで神が仰っておられることを考えてみてください。果たして神は、信仰を続け、約束が実現するように神に祈り続けている信仰のある人々を見つけることができるのでしょうか。ここに、全宇宙の公正な裁判官であり、御言葉を実現される方がおられます。私たちはその方に祈っていますか？ どうです？ あるいは、悪いことがあったときだけ祈るのですか？ それは、私たちの中にもいるかもしれない、あの息子と同じです。音沙汰なし。電話が鳴ったときは、こう。「ふ～お金が必要なんだろう。」何の用事か、もう分かりますよね。ダメです。私たちは、祈ることを実証しているのか。このような、そもそも信じていることを示すような側面が継続的にあるのか。それがやって来ることを過度に求めるほどに、神の御約束を信じる必要があります。「どうか来てください。どうか来てください。」と同時に、私たちのところに人が来るようにと求め、そうすれば彼らも信じさせられるのです。私たちは、主の到来を止めるのではなく、そうではなく、私たちが人を進めるのです。すると主が早く来られます。時に私たちは、それを逆手に取ります。「ええ、私の誰それは救われていないのです。」早く救ってあげてください！！ もし神があなたを用いられるなら、祈り続けてください。さあ！ 誰がこの地上に留まりたい？ 何が起こるかは、私たちみんな知っています。信じることを求めるべきです。すべて機転が必要です。もちろん。神の御国へ反映するため、神の御言葉を知ること。ですから、そのためにも祈る必要があるのです。そして、私たちの誰もこれを行うことができないということです。そのためには、聖霊の御力が必要です。聖霊が私たちに教えられます。これらの信仰の柱とそれ以上のものをすべて実証して見せてくださるので

す。しかし私たちは、聖霊に任さなければならず、御霊を悲しませたり、御霊を消したりしてはなりません。聖霊に私たちの人生で思い通りにしていただくのです。繰り返しになりますが、これは救いの話ではありません。私たちが本当に信じる私たちの実によって分かる事です。先ほど言った通り、信者は、信念、信仰、信頼のすべてを兼ね備えています。信頼以外の話をしましたが、ここで終わりにします。「信頼」という単語は、避け所を意味します。この避け所とは、神の守りのご臨在、またはその範囲内です。神の守り。聖書の中で初めて「信頼」「信頼した」という言葉がある箇所注目ください。「申命記 32 章 37 節」に書かれています。お読みします。

申命記 32

37 そのとき主は言われるであろう、／『彼らの神々はどこにいるか、／彼らの頼みとした岩はどこにあるか。』

岩、または、信頼という単語に翻訳されます。これが、神に信頼するという事です。信頼とは、神の保証を得ることです。神に関していえば、それは神の保証です。決定事項です。なぜなら、すべての背後に神がおられるからです。だからこそ、人間への信頼は何の意味もないのです。これは、私たちの心に深く刻まれるべきです。私は、あなたの神の避け所になることはできません。いや、私を信頼してほしいですよ。私も皆さんを信頼していますよ。しかし、それもここまでです。その信頼は、魂が危機に瀕しているときに失われます。魂に関わることで、信頼すべきは、真の生ける神だけであり、私たちの誰でもありません。私たちの誰でもありません。まったく。完全な信頼は、神の避け所にあります。しかし悲しいのは、ある人たちの行為によって、あるいはその行為の欠如です。私たちの多くが、あえて言うなら、私たちはなぜか常に人間に信頼を置き続けているのです。そしてその都度、私たちは歩みを硬直させます。主との歩みが不自由になります。なぜか？ 人間を信頼しているからです。それが私たちの持つ最大の障害。墮落した人間です。政府。この大きな傘は制御不能のまま咲き続けます。なぜ、私たちは、政府が答えだと信じるのですか。さて、だからといって私たちが市民の義務を果たさないという意味ではありません。あなたが必要とされるものは何でも主の御名によって、行ってください。ここに問題があります。それが自分の人生の目的になった時です。どれだけの人が人に落ちますか？ どれだけの教会が人の手に落ちますか？ これだけは言わせてください。今、どれだけ多くの教会が、政府の監視下に置かれているか、皆さん信じないでしょう。彼らは、政府から資金提供を受けているからです。では、彼らの信頼はどこにあるのか？ 主がその働きを祝福してくださると思いますか？ 信じられない部分もあります。それでも、なお悲しいのは、すべて何かが足りないからです。「詩篇 146 篇 1-5 節」神の御言葉をお読みします。

詩篇 146

1 主をほめたたえよ。わが魂よ、主をほめたたえよ。

2 わたしは生けるかぎり主をほめたたえ、ながらえる間は、わが神をほめうたおう。

3 もろもろの君に信頼してはならない。人の子に信頼してはならない。彼らには助けがない。

4 その息が出ていけば彼は土に帰る。その日には彼のもろもろの計画は滅びる。

5 ヤコブの神をおのが助けとし、その望みをおのが神、主におく人はさいわいである。

私にとって、これがすべてを物語っています。私たちは、人間ではなく、主を信じて頼らなければなりません。では最後の1つ。「信じる」という言葉を見てください。I という文字が信じる/Believe の真ん中にあるのに留意ください。信じるかどうかは、私たち個人次第なのです。もし私が信者なら 皆さん、私の人生の中心でそれを見るでしょう。まさにそこが、私たち皆にとってイエス・キリストが存在され いて

くださるべき場所です。ご起立ください。カポノは賛美で祝福してください。主の御言葉が、ここにいるすべての人たち、オンラインの人たちの心に語りかけられたことを祈ります。それと共に、今一度、心を低くして神に祝福を祈りましょう。

天のお父様。今夜、あなたが御言葉の中で、御言葉を通して成し遂げてくださったことに感謝します。私たちがここを出て、それぞれの道を歩むとき、御言葉が私たちの思考と心に留まるように祈ります。早くあなたの家に戻り、あなたのご臨在をもっと楽しみ、私たちは生命体として共に集い、交わるのを楽しみにしています。

主よ、あなたがこのミニストリーを用い続け、ここにいる全聖徒を用い、あなたの御心を実現してくださいようお祈りします。私たちはあなたを愛し、感謝し、あなたに信頼を置きます。救世主イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7